

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	山梨大学	整理番号	F04
プログラム名称	グリーンエネルギー変換工学		
プログラム責任者	杉山 俊幸	プログラムコーディネーター	内田 裕之

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、学生主体の国際セミナー開催、海外インターンシップ制度、国際ネットワーク形成等、学生をグローバルに育成する環境が構築されている。特に、「他流試合」や「マイスター認定」等を含む充実した独自の特別教育プログラムが新設・完成されている点は評価できる。「燃料電池分野」、「太陽エネルギー分野」、「エネルギー変換材料分野」及び「新エネルギー工学分野」の4つの分野から複数の研究課題を選択するというメジャー／サブメジャー制度は学生の幅広い専門能力の育成に効果が発揮されていると見受けられる。また、学位の質保証のために外部審査員を含めた英語による3段階の厳正な学位審査がなされている点も評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、授業に加えて留学、インターンシップ、学生主体の国際セミナー等を通して、国際コミュニケーション、発表、討論、管理の能力を涵養・強化するとともに、ネットワーク構築ができ、着実に成長している。また、他機関・他分野との共著論文や受賞も多数あり、学生は成長を実感し満足度は概ね高く、既に21名の修了者を社会に輩出している点は評価できる。エネルギー関連という実用に近い学問領域であることもあり、明確なキャリアパス構築がなされていることは優れた点であるが、一方、前期課程修了後に就職するケースが多く見られることから、改善に向けて今後一層の努力が期待される。

事業の定着・発展については、学長中心の全学マネジメント体制により、本プログラム継承のための研究科組織と教員組織の刷新に意欲的に取り組んでいる。特に、後継の特別教育プログラムと大学院博士課程の改組による「エネルギー物質科学コース」の新設、学長裁量による教員の重点配置、財政措置等が具体的に計画されている点は評価できる。これらの点は、将来的に全学への波及効果も期待される。また、必要な財源に関しては、産業界との連携等による、より一層の財政基盤を確立することが期待される。